

えにし通信

2017.2.8
Vol.9

誰もが「おめでとう」と
誕生を祝福され
「ありがとう」と看取られる
地域づくりマガジン

滋賀の縁創造実践センター

特集

滋賀の縁創造実践センターの取り組み
制度のはざまへのアプローチ

動き出した縁センターの
実践から見たこと

P2-4

縁を広めよう・深めようインタビュー **A**P6-7

「えにしの日」災害のことからわがまちを見つめなおし、
地域の豊かさを創り出す活動を

堤 洋三 さん 滋賀県老人福祉施設協議会 副会長
社会福祉法人六心会 特別養護老人ホーム清水苑 施設長
滋賀の縁創造実践センター 理事

日野こども食堂 ひまわりカフェに集まった
皆さん(詳細はP8参照)



CONTENTS

*ようこそ!うちの子ども食堂 **B**P8-9

日野こども食堂 ひまわりカフェ

*インフォメーションP10

*滋賀の縁創造実践センターの目標・会員名簿...P11

*3.11 えにしの日・3/9~3/15 えにし週間P12

今回の「えにし」は
ここからお届け★



A 東近江市
B 日野町



滋賀の縁 創造実践センターの取り組み

滋賀の縁創造実践センター“えにし活動実践マップ” 2017.1.10時点

- 縁・共生の場
 - ・遊べる・学べる淡海子ども食堂 ●43か所
 - ・“滋賀の縁”認証事業 ●18か所
- 課題解決のためのネットワーク
 - ・滋賀の縁塾の開催 ●8か所
 - ・圏域交流会の開催 ●7か所
- 制度のはざまの解決に取り組むモデル事業
 - ・フリースペース ●
 - ・要養護児童の自立支援 ■
 - ・入浴支援事業 ▲
 - ・ひきこもりの人と家族支援 ◆
 - ・はたらく体験 ★
- 縁結び・つながりづくり
 - ・ふく・楽café ●
 - ・福こい♡縁結び♥



制度のはざまへのアプローチ

～動き出した縁センターの実践から見たこと～

「自覚者が責任者」

糸賀一雄先生の実践の言葉である「自覚者が責任者」は、滋賀の福祉にかかわる実践者の志となっています。糸賀一雄先生誕生100年となる平成26年、制度の枠にとらわれない支援をつくるために滋賀の縁創造実践センターは5年間という期限のもと発足しました。分野や立場を超えた協働により生み出された実践は、これからの福祉が目指すトータルサポートの実現に向けた確かな一歩となったのではないのでしょうか。

まもなく縁センターは4年度目を迎えます。今回はそれぞれの実践にかかわっている皆さんから、これまでの実践を振り返るとともに現在の思いについてお話を伺いました。

実践 1

医療的ケアを要する重症障害児者の入浴支援モデル事業 縁センターの「自分だけで抱え込まず、協力しあう」発想が好きです

社会福祉法人びわこ学園 増野 隼人

ご本人の状態や家庭の入浴環境等から、重症心身障害児者の入浴回数を増やすことはなかなか容易ではありませんでした。この課題は、同じ支援に関わる人にとっても課題に違いなし、「こんな支援があったらいいね」と常々話していたことがこうして分野を超えた協働により実際に動き出して・・・、いや～、やってきてよかったですね。

実際に事業が動き出すと、障害者福祉の課題解決のために高齢者施設から多くの協力の手が挙がり、制度上、家にしか行けない訪問看護ももっと自分たちの持っている力を活用してほしいとその枠を超えて協力してくださいました。はじめはやはり大変でしたが、しっかりと話し合うことで解決できました。このように立

場や言語が違う中で分野を超えた協働をすすめていくためには、お互いの専門性や視点、大切にしていることについて丁寧にすり合わせていかないと、改めて強く感じています。支援者一人ひとりがそれぞれの分野で専門性を高め、極めていくことももちろん大切ですが、協働においては、自分たちの高めた専門性という殻から飛び出して、まずはみんなと「目線を合わせよう」という態度や工夫が必要になるんだな、と。それができなかったら、ほんまもの専門家の力が発揮できないのではないか、と。この気づきは、私にとっては大事な成果のひとつです。

縁センターの「自分のところだけで物事を抱えこまず、分野や所属を超えて協力し合う」という発想が好きなので、これからも皆ができることを出し合って、柔軟な支援をつくっていききたいですね。



▲特別養護老人ホーム誉の松で行われた入浴支援事業の様子



▲増野 隼人さん



実践 2

子どもの笑顔を育むコミュニティづくり ひとり親家庭の子育て に関する実態調査

困りごとに寄り添った 滋賀らしい実践を

龍谷大学社会学部現代福祉学科准教授
/ひとり親家庭の子育て支援に関する調査委員会
委員長 山田 容

地域の中に濃厚な関係があり、プライバシーを越えた助け合いがあった時代から社会環境は変わり、過度な干渉は敬遠されるようになりました。しかし一方で、家族の力は弱くなり、社会に向けた支援のニーズは高くなっています。そこで、今日では、適度な距離を保ちながら支え合える、そのようなコミュニティを構築するための模索がなされているのではないのでしょうか。



▲山田 容さん

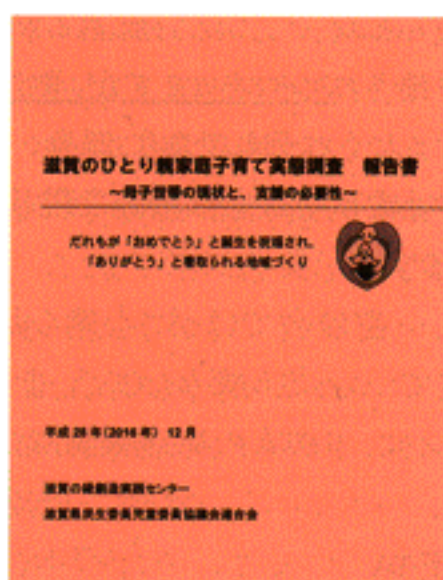
今回の調査は、「淡海子ども食堂」の取り組みを進めるなかで、「いま」のひとり親世帯の方々の暮らしづらさや、求められている支援はどのようなものなのか、当事者の声をお聞きし、少しでも望んでおられることに沿った支援をしていくために実施したものです。

結果を見ると、毎日の暮らしを何とか営んでおられるお母さんの姿があり、お母さんの健康状態や就労形態が子どもの成長や日々の暮らしに影響を与えていることが見えてきました。そして困ったときにまず求められているのは、公的な支援よりも私的なネットワークであることが如実に表れるものとなりました。また、自由記述に記された多くの切実な思いからは、社会への深い憤りとともに、しっかりと困りごとを受け止めてくれる場を求めていることが伝わってきました。

私は、「子ども食堂」は地域の支援者と親子の私的なネットワークをつなげる接着剤となりうる機能があり、この実践は子どもへの熱い思いがこもった社会の知恵だと思います。今回の調査結果が、回答いただ

けなかった、あるいはこの調査票が手に渡らなかった家庭にも思いをはせながら、困りごとに寄り添った滋賀らしい実践につながることを願っております。

◀滋賀のひとり親家庭
子育て実態調査 報告書



実践 3

何かあったらここにおいて★ 子どもの居場所 “フリースペース”

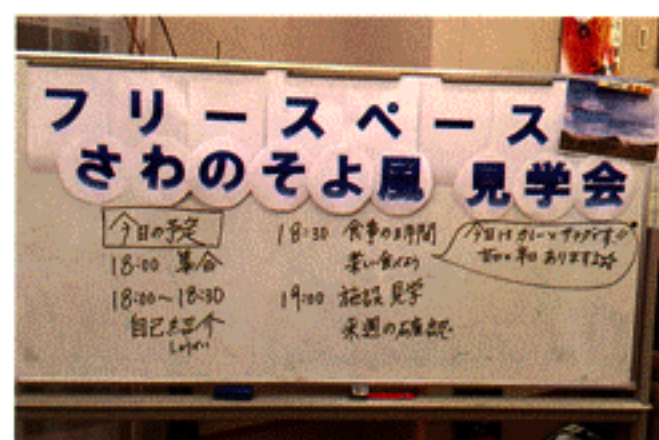
地域の施設を 子どもが居場所と思える場に

高島市社会福祉協議会
子どものあしたコーディネーター
(学習・生活支援コーディネーター)

八坂 麻美

縁センターのフリースペース事業への参画を通じて子どもや家庭を応援する社会福祉法人の動きが高島市にも生まれています。高島市では、何らかのサポートを必要とされるご家庭や子どもに対して、少しでも支えになれる部分はないか、関係機関が連携し合い、応援していくための手立てをこれまで重ねて検討してきました。その協議の実践の一つとして、現在市内2ヶ所でフリースペースが生まれ、県内で最も広域な高島市の地域性に合わせ、年度内にはさらに数ヶ所で実施される予定です。縁センターのサポートのもと、新たな連携体制の中でコーディネーターとしてかかわりながら、これまで手が届かなかった部分にアプローチできるようになった事は大きな一歩だと感じています。フリースペースでは、子どもと大人(ボランティア等)との関係が築かれる中で、徐々に子どもの自主性や良さが引き出されてきていると感じる場面も増えました。一方で、大人は子どもとの関わり方について、何が子どもにとって最良なのか、正解がない中で悩む場面もあり、必要に応じて話合う機会を設けています。

今後は、フリースペースだけでなく、より多くの人が地域の子どもの対し、気づきのまなざし、あたたかなまなざしを持てるような地域づくりを、地域の方々や社会福祉施設、行政、学校、様々な関係者と共に、考えていくことが大事だと感じています。



▲平成29年1月から始まったフリースペース
さわのそよ風(高島市マキノ町)



▲八坂 麻美さん



▲あったかご飯で心もほっこり

実践 4

地域の企業や事業所が、
児童養護施設や里親のもとで暮らす
子どもたちの応援団に!

ハローわくわく仕事体験

子どもが
確実に変わっています!

社会福祉法人さざなみ学園 遠城 孝幸

ハローわくわく仕事体験が始
まって一年が経とうとしています。
有り難いことに、多くの子ども達が
様々な職場で仕事を体験するこ
とができました。

仕事についてネガティブに捉え
ている子どもは少なくありません。
例えば、「(自分の力量では)実際
の職場では通用しない」とか、「ど
うせ失敗して怒られる」などとい
ったイメージを強く抱いています。
“そんなことはないよ”と私たち
職員が言葉で説明したところで、
そうした思い込みはなかなか
変わりません。

しかし実際の体験は、子どもに大きな変化を与えるようです。
体験後は「もっと(多くの日数)やりたかった」、「ちゃんと仕事か
できて褒められた」、「職場の人が親切だった」、「仕事がこんな
に厳しく、同時にこんなに楽しいものとは思わなかった」などの
感想が多く聞かれました。その後の子どもの様子を見ていると
“仕事できた”とか“職場の人に認めてもらえた”といった体験
が、どれだけその子の将来の可能性を広げ、好影響を与える
かは計り知れません。

また受け入れ先である職場の方からも、「私たちにとっても



▲この体験は宝物です!

貴重な機会になった」、「子ども達
が来てくれて職場の雰囲気か
明るくなった」といった嬉しい感想を
多くいただきました。

子どもの成長は、大人にとっても
大きな喜びです。それを共に分か
ち合い、今後も子どもの応援団とし
て手を広げ続けていただけること
を願ってやみません。



▲遠城 孝幸さん



▲子どもたちが「働く」ことについて知り、未来の自分の姿について考える
機会となるプロフェッショナルセミナーには、企業の応援団がズラリ★

実践 5

現在福祉を学んでいる学生と
現役福祉職員の語り場

ふく・楽café～縁～ —ふくしの仕事と楽しく生きる—

福祉職員の情熱が
学生の未来の光となる

社会福祉法人恩賜財団済生会 特別養護老人ホーム淡海荘 口村 淳

福祉の職場は、3K(時には7K)などと言われることがあります。
そのせいか、せっかく大学や専門学校などで福祉を学んでいる
学生がいても、いざ就職活動となると、二の足を踏んでしまう人が
いることも事実です。

「ふく・楽Café ～縁～」は、福祉を学んでいる学生と、現役の福



▲この出会いが進む道の決め手となった学生も、現在滋賀の福祉現場で
活躍中!

実践 6

生きづらさを抱える人の
「働きたい」を応援

「傍楽体験」

制度の枠にとらわれない、
その人らしく輝ける可能性を探す
小さな働く場づくり

NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター常務理事 城 貴志

収入を得るため、自己実現のため、社会との接点を持つことな
ど、「働く」ことは私たちが生きていく中でとても大切です。「傍楽
体験事業」では、働きづらさを抱える人たちの「働きたい」をさま
ざまな形で応援しています。いわゆる就労支援と呼ばれる制度は

整備されつつありますが、働きづ
らは人それぞれであり、既存の制度
では柔軟な対応は困難な現状があ
ります。

小委員会では小さな働く場を地
域でつくる取り組みをしています。た
えば、当法人の発送業務は送り先



▲城 貴志さん

社職員を結びつける取り組みです。たとえば、就職説明会なども学生と職員が交流する機会といえますが、参加する学生はどうしても緊張しがちです。「ふく・楽Café ～縁～」では、なるべくリラックスして参加してもらえるよう、カフェのような雰囲気を心がけています。



▲「こんな福祉の仕事がしたいと思っています!!」学生のキラキラした眼差しと意欲に、職員も元気をもらいます★

ある男子学生からは「福祉の仕事で家族を養っていけるか心配していたが、実際に家族を持っている男性職員から話を聞いて安心した」という声がきかれました。また別の女子学生は「参加者が少なかったけど、その分じっくりと職員さんの本音を聞いて、すごく贅沢な時間だった」という感想もきかれました。熱っぽく仕事の魅力を語ってくれた福祉職員の情熱が、参加者の満足度につながったのだと思います。

「ふく・楽Café ～縁～」を主催する「縁結び・つながりづくり小委員会」は、支援者(職員)に焦点をあてた取り組みを行っています。こうした取り組みを通して、滋賀の福祉を担う人材輩出の一端を担えれば、委員として幸せに思います。



□村 淳さん▶



▲「傍にいる人を楽にする」そんな気持ちで気軽に足を運んでもらえたら嬉しいです。

も多く、職員だけでは苦戦する業務のひとつなのですが、傍楽体験の場として設定させていただきました。この郵便物を受け取る相手のことを考え、ひとつひとつ心を込めて丁寧に封入作業に取り組まれる参加者の方の姿は頼りがいがあると同時に、本来仕事とは、「相手を思い、傍を楽にする」、そういう気持ちで取り組むものだな、と職員一同大切なことに気付くことにもなりました。

このような「働く場」での体験を通して、自己有用感や人とのつながり、社会とのつながりを感じた方や、実際に就職された方もおられます。決して「就労」がすべてのゴールではありませんが、この体験を通して一人ひとりスピードは違ってもそれぞれのステップを刻んでいくことを丁寧に応援していきたいです。

「働きづらさ」を吐きだせずにいる人は、たくさん地域におられます。そうした思いを抱えている方やその周りの方にこの取り組みを知ってもらい、安心して参加してもらえるよう、体験の場やメニューをもっと増やし、発信していくことが大切だと考えています。県内の企業や団体等とともに、さらに取り組みを広げていきたいです。

実践7 多職種連携のチームづくりを学ぶ

～「縁塾事例検討」「多職種サロン」の実践を通して～

「多職種連携」とは、人々が共に何かを創造するプロセス

滋賀県社会福祉士会 近藤 真由子



▲近藤 真由子さん

一昨年から引き続き、同志社大学の上野谷先生と野村先生による「滋賀の縁塾」が7圏域で開催され、今後求められる専門職像を意識しつつ、講義と演習により多職種が共に学び合いました。

さらに、今年度から「事例検討」多職種サロン」と称し、「事例検討」などを通して、「共に学び・気づき・支え合う」「場」を各地に作っています。これは「法人内の事例検討」・「地域内の支援者の勉強会」・「他機関の同職種の事例検討」など必要・要望に応じて、現地に出向いて開催しています。

現場の中の何らかの気づき(困難事例・課題など)から、じっくり話し合っていくと、事例解決だけでなく、今私たちが行っている支援の意味や漫然とした不安を整理していく作業にもなっているようです。そして様々な分野の方たちと多様な事例を検討する中で感じるのは、「多職種連携」は、決まった定義やあるべき姿はなく、人々がともに「なにか」を創造するプロセスそのものなのではないかということです。ですから、そのプロセスを大事にしていかなければならないと思っています。

今後も、「滋賀の縁塾」などの研修の学びをより実践に活かせるよう、県内各地で事例検討会(自主的活動)をすすめていきます。ご関心のある方、お気軽にご連絡ください!



利用者の本当のニーズって?



私たちに何ができるだろう?



「えにしの日」 災害のことからわがまちを見つめなおし、 地域の豊かさを創り出す活動を

滋賀県老人福祉施設協議会 副会長
社会福祉法人六心会 特別養護老人ホーム清水苑 施設長
滋賀の縁創造実践センター 理事

堤 洋三 さん

滋賀の縁創造実践センターでは、非常時にこそ日頃の地域が現れ、地域のつながりがどれだけ大切かを知るようになるとの思いから、災害時に備えた地域実践を県民運動として推進しようと東日本大震災が発生した3月11日を「えにしの日」と決めました。この日を前に、滋賀県老人福祉施設協議会の中で災害対策に取り組んでいる堤洋三さんにお話をお聞きしました。

平素の地域とのつながりができていないと 災害時に福祉施設は活動拠点になり得ない

谷口 滋賀県老人福祉施設協議会（以下、滋老協）はどのような経緯で災害対策に取り組み始められたのですか。

堤 東日本大震災以降、福祉施設の中で災害対策の構築が必要だという声が高まり、滋老協で災害対策委員会を作ることになりました。施設の中で入所者を抱えながら地域の被災者を迎え入れるための計画がまったくできていない状況でしたので、そこから対策していこうと2012年に活動をスタートしました。

谷口 活動開始から約4年で、どのように進展してきたのでしょうか。

堤 活動テーマは主に三点、各施設のBCP（事業継続計画）※策定、施設間相互支援協定、原子力災害時の広域避難の対応です。実はまだBCPが会員施設全てに構築されるまでには至っていませんが、災害対策を重点的に取り組んでおられる施設も増えてきています。施設の災害対策は、ごく雑駁に言うと、施設の利用者を守ることと地域住民と連動することの二点ではないかと思います。以前はこの二点を別に語られることが多かったように思いますが近年では地域との関係性を含んだBCPであるべきだと言われています。災害発生時には状況が混乱します。施設のある地域も混乱します。その

中で、施設として利用者を守りながら地域とどのように関わるかが問われています。そのとき、平素からの地域との付き合い、関係性が豊かでないと災害対策は進まないように思います。そこを認識し、地域住民とともに災害対策を進めておられる施設も出始めています。

県内の施設間相互支援協定締結は、ほぼ進みました。原子力災害の広域避難についても滋賀県の担当者と滋老協の災害対策委員長が危機感強く推進役となり、素案から練り上げ、形になろうとしています。

谷口 県内の自治体でも、施設と協定を結んで福祉避難所の指定はしたけれども、具体的に施設側でどういう準備をしてもらったらいいいのかのノウハウがなく、現状では指定して終わりになっているという話が聞こえてきます。堤さんの考える、平素の地域とのつながりというのは、どのようなものなのでしょうか。

堤 例えば、地域の自治会や町内役員会などと施設の管理者や担当者との間にルートを作るということです。定期的に懇談するテーブルがあるとか、そのときに、それぞれの地域で災害の歴史、これまでどんな災害が起きて、どのように対処してきたかという歴史を共有することが大切かなと思います。そうすれば、おのずと次の災害時に双方に何が必要かが分かってくるんです。

職員が「二枚目の名刺」を作り、 地域に出ていく時間を与えることが 地域貢献活動につながる

谷口 東日本大震災で被災地支援に行かれた経験も活かされそうですか？

※BCP（事業継続計画）：企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと（中小企業庁ホームページより）
http://www.chusho.meti.go.jp/bcp/contents/level_c/bcpgl_01_1.html

堤 被災地支援はどうしても仕事として派遣されたという意識が職員にあるので、自分が手がけたケアワークについては語れるけれども、派遣された地域の歴史や背景まで理解する余裕はなく、なかなか難しいですね。どのような地域にその施設があり、その施設や法人がどういう歴史を紡いできたかということまでは見られていなかったということがあります。スタッフを派遣する際に、事前学習やミッションとして、施設と地域との関係性も可能ならキャッチしてください、と言うべきだったという思いがあります。

谷口 災害時にこうあらねばということではなく、職員の方が日頃から自分の勤める地域に関心をもって自分の五感で地域のくらしを感じとることができるようにしてきてほしいですね。地元の方たちとのつながりもつくってほしいですね。

堤 そうですね。社会福祉法人はどうしても地域の住民を福祉の対象者として施設の内部に入れることを考えがちになっています。それももちろん社会貢献の一つではありますが、やはり地域の中に日常的に職員が溶け込んでいくような活動を仕掛けていかないといけないと思います。

谷口 社会福祉法人の地域貢献活動については、施設職員が地域のさまざまな相談を受け止め、何かできる支援をしていこうという活動があります。それももちろん大切な活動ですが、縁では地域の関係者が持っている課題を共有し、解決する具体的支援に施設を活用してもらおうという形もひろがってきました。

堤 先日、東近江地域の会議で「二枚目の名刺を職員が作れる工夫をしないといけませんね」という話を聞きましたが、それはまさにそのことだと思います。一枚目の名刺は、私の場合であれば社会福祉法人六心会の介護職やソーシャルワーカーの名刺になります。それに対して二枚目は、施設のある五個荘川並地域の相談員など、コミュニティに適した名刺を作るんです。そして、勤務時間のうち一部は地域の自治会長や民生委員と懇談する、という時間を法人は職員に与えないといけない、という話でした。

谷口 それこそ社会福祉法人の地域貢献の取り組み方ですね。子ども食堂の開設準備講座でも、老人ホームの方が、地元の自治会の方と地域の子どもの話をするとところからがはじまりですよ、と言っておられました。子どもを連れてくる方法を考えるのではなく、地域にどんな子どもがいるかを知るのが大切ですね。

堤 だから、私も含めキーとなる職員は自治会の回覧板にできるだけ目を通すように心がけています。五個荘地区には近江商人屋敷や資料館、近江商人博物館などの施設があるのですが、住んだり勤務しているだけで、実は行ったことがなかったり、近江商人ゆかりの「泥亀汁」というなすびを使った料理も地元にながら食べたことがない、という職員が多いんです。そういう身近な地域の歴史や文化を知るところからはじめることが大事です。

介護の現場では、ケアワークをするだけでは能力的に厳しかったり、逆に物足りないと感じる人もいますよね。そのときに2番目、3番目のチャンネルを持っていると、ケアワークだけでなくいろんな地域活動もできるのではないかとその人材を活かすことができる。そうした法人の考え方の大きさも必要になってくると思います。

谷口 福祉の分野で就職を考えている大学生は、やはりそういった法人の活動の豊かさや自由度も気になるようですよ。人手が足りない現状の中で、この地域で働いてよかったと思える時間を作ることも大きな役割の一つですね。

滋賀ならではの文化や歴史を踏まえた 温かみのある活動を作っていきたい

谷口 縁センターは開設から3年を迎えました。最後に、今後目指すべき方向について、お考えをお聞かせください。

堤 いろいろな委員会が動き出して、地域で制度のはざまにある課題をかかえて困っている人を助ける、という実践については一定の成果が出ていると思います。地域で制度のはざまにある課題をかかえて困っている人を助ける、というのが縁の事業のメインとなっていますが、今後人口減少の局面に入っていく中で、豊かな地域づくり、QOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上ということに視点を置き、ステージを一段上がったような活動が縁センターから出てくるように取り組みたいと思っています。そこに若い世代が目を向け、こういう活動の中で仕事をしたいと入ってきてくれば、新しい広がりが出てくるのではないかと期待しています。

谷口 子ども食堂も地域食堂を目指した取り組みであり、地域の豊かさをあらわす取り組みの一つと言えますね。

堤 困窮している人を助けるのは社会福祉の充実という意味では当然の話で、そこにプラスして滋賀ならではの歴史や文化を踏まえた温かみのある活動を作っていきたいですね。

谷口 だれもが笑顔になれる居場所を地域の中にもてるといふ地域の人びとの知恵や文化、そして人へのあたたかく分けへだてのないまなざしは大事にしたいといつも思います。

どうもありがとうございました。

インタビュー／谷口郁美
滋賀の縁創造実践センター所長



ようこそ!うちの 子ども食堂

日野こども食堂

ひまわりカフェ



現在、県内43か所に広がる「遊べる・学べる淡海子ども食堂」。“ごはん”を通じて子どもを大事にする垣根のない居場所づくりが進んでいます。あたたかな食堂を開催されている皆さんは、どのようにしてこの食堂をすすめられているのでしょうか。今月の表紙にも登場してくださった「日野こども食堂「ひまわりカフェ」」の皆さんにお伺いしました。



▲子ども食堂に参加すると、スタンプを1つ押してもらえます!子どもたちも積極的にお手伝い★

つながり、共感することで心ぽかぽか♥ ひまわりのように明るい気持ちになれる場所

子ども食堂という名前だけど、赤ちゃんからお年寄りまで歓迎です!



★店長 武藤悦子さん

小学校へ行くと「○○ちゃんのお母さん、ばいばーい!」とわが子の学年以外の子にも声をかけてもらえるようになりました。子どもたちみんなかわいいことが自慢です♥

私は同じ境遇の人同士で話せる居場所をつくりたくて立ち上げた「わくわくらぶ(特別支援学級に通う子をもつ親の会)」の活動を通して、つながって共感することで心があたたかくなることを実感していました。

以前から子ども食堂の活動にも興味があり、偶然「淡海子ども食堂」の募集チラシを見つけて一念発起!Facebook等の呼びかけを通じて他の園の保育士さんや学童の支援員さんとの出会いにも恵まれ、みんながそれぞれ得意なことを活かす形で平成28年6月から始めることができました。まだ日は浅いですが、子ども達の笑顔にスタッフも癒され、元気をもらう毎日です。いずれはわくわくらぶとのコラボ等、活動をひろげていきたいと思っています。



ダンス教室の生徒さんのお母さんからのつながりでボランティアにきています。1人でも多くの人にダンスの楽しさを知ってほしいです★



▲甲賀市甲南町野田を拠点に活動されているダンスグループ「D fan Studio」のみなさん!左から望月千幸さん、岸昇平さん、岸明美さん

食べることは生きるチカラを育むこと

調理師の仕事をしているので、子ども食堂でも「食べることは生きること」をモットーに活動しています。飽食の時代と言われますが、食べものについての知識はさまざま。この前は、ゼリーをつくるためにゼラチンを水に入れてふやかしたら、子どもたちは「こんな風になるんや!」とびっくりしてました(笑)「お鍋とお米、お水があればご飯が炊ける」ことを知ってほしいし、それが生きるチカラにつながると信じています。できるだけ子どもたちのやりたいことに寄り添えるよう、プログラムづくりをしています。

▼この日はクリスマスメニュー★レシピメモ付だからお家でも作ってみよう!



保育園で調理師や栄養士をされている調理グループ★毎回こだわりの美味しいご飯で、子どもたちの「おかわり」の声が響きます!



▲ダンスのあとは、はないちもんめ♪午後のクリスマス会も、みんなのお楽しみ♥

◀左上段から竹岡真理さん、武藤悦子さん、長岡弥咲さん
左下段から武藤鈴子さん、山田佳奈さん



★中西優衣さん(ゆいちゃん)／保育士

皆が毎回楽しみにしてくれていて、幸せです♡♡

Facebookで武藤さんが子ども食堂の活動をされることを知り、ぜひ一緒にやってみたいと思って連絡しました。はじめは探り探りで子どもたちにも緊張感が漂っていたんですが、回数を重ねるにつれて表情が柔らかくなってきました。毎回皆が楽しみにしてくれていることがとても嬉しいです♡

★小谷沙織さん(さおりちゃん)／学童支援員

同じ空間のなかで
それぞれのひとときを過ごす場所

ここは子ども1人でも気軽に来ることができて、ご両親が忙しい時におじいちゃん、おばあちゃんと来てくれる等、いろいろな世代の人が多くときには70人以上集う場所になっています。わいわいご飯を食べたあとはみんなで過ごすもよし、自分で持って来た漫画を読むもよし、思い思いの時間を過ごしてくれています。私自身子育て中なので、お母さん同士のおしゃべり情報交換も嬉しいですね♪



開催日 月1回 土曜日

参加費 子ども／100円、大人／200円

場所 日野公民館(蒲生郡日野町河原2丁目67)

連絡先 080-5365-7976(武藤さん)

地域の子どもの笑顔のために!
実施主体や手法はさまざまでも、
この想いはひとつ

～見たい!聞きたい!淡海子ども食堂～

開設準備講座 第4弾(大津会場)を
開催しました



「子ども食堂って、どんなところ?」「始める前に疑問を解決したい!」

子ども食堂の取り組みと意思をつなぐ、開設準備講座。12月には大津会場で開催し、田上っこ食堂と晴嵐みんなの食堂からの実践報告やグループワークを通してイメージを膨らませました。今回は子ども食堂をはじめたい方だけでなく、応援したいという思



いをもって参加される方の姿も見られ、子どもの笑顔を育む取り組みが県民運動になりつつあることが実感できたひとときとなりました。

～つながろう!淡海子ども食堂のネットワーク～
情報交換会(交流会)を開催しました

それぞれの食堂について学びあう機会として、今年度第2回となる情報交換会を開催しました。

名刺交換や各食堂からの「うちの食堂ひとこと自慢」のあとは、「子ども食堂の工夫」等を話し合うグループワークを通して交流を深めました。



はじめまして!
名刺交換



手洗いと
体調管理を
しっかり
行いましょう!



衛生講座にお越しいただいた
滋賀県生活衛生課
食の安全推進室の
東野貴子さん

子どもの笑顔がうれしい
みんなで一緒に楽しく
やりましょう♪



“滋賀の縁”認証事業、 新たに9団体が認証、4団体が奨励! ～未来につなぐ、えにしの営み～

滋賀の各地において、これまであたたかな縁・共生の場づくりに取り組まれてきたひとつひとつの活動に光をあて、未来の県民へと営みをつなぎ、ひろげていく“滋賀の縁”認証事業。このたび、新たに9団体が認証、4団体が奨励となり、縁・共生の場の証である認証プレートの贈呈が、第2回滋賀県社会福祉大会表彰式(平成28年10月25日/栗東芸術文化会館さくら)にて行われました。贈呈を受けた団体・活動の皆さんからは「今後の活動への励みとなった」との喜びの声があり、更なる深まりとひろがり期待されます。



▲1月に開催した認証式(於:滋賀県公館)では、それぞれの取り組みと
思いについて語り合いました

【認証】

- 社会福祉法人びわこ学園
在宅重症心身障害児者の地域ケアの取り組み
- 社会福祉法人グロー サービスセンターれがーと
利用者主体の地域生活支援の実践
- 社会福祉法人グロー ボードレスアートミュージアム NO-MA
障害のある人の造形活動支援
- 社会福祉法人共生シンフォニー
ソーシャルエンタープライズとしての実践
(ひとり親、ひきこもりの人、虐待を受けて悩んでいる人たちへの就労の場の提供)
- 株式会社なんてん共働サービス
認知症高齢者ケアの場における知的障害者の就労(利用者が支援者に)
- 大野木長寿村まちづくり会社
地域住民主導による介護予防・日常生活支援総合事業の取り組み
(ビジネスの手法を取り入れた持続可能なまちづくり)
- レイカディア大学同窓会・レイカディア大学サポート隊
レイカディア大学卒業生による、地域貢献活動と生涯現役社会づくり
の実践
- 淡海フィランソロピーネット
社会福祉をテーマとした企業の社会貢献活動
- 滋賀県自助具製作グループ連絡協議会
専門職とボランティアの連携による自助具の普及(自助具工房)

【奨励】

- 山中比叡平学区社会福祉協議会
学区社協における居場所と助け合いのコミュニティサービス活動
- 八日市に冒険遊び場をつくる会
子どもたちに必要な“サンマ”(①空間②時間③仲間)を取り戻す活動
- 特定非営利活動法人宅老所 心
なじみの地域で、困りごとに寄り添い、支え助け合う活動
- 枝折おたすけ隊
団塊の世代を中心とした住民主体による多様なサービスモデル

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成28年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

補償金額(保険金額)

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金		1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金		1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)
	入院保険金日額		6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		430円	650円

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課
TEL: 03(3593)6824
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

滋賀の縁創造実践センター5年間の目標

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる地域づくり

①地域に縁・共生の場をつくる⇒300か所(概ね小学校区に1つ)

だれでも気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSがつながる場を“これぞ縁”として、地域のなかに「縁」の志と実践をひろげていきます。

【リーディングプロジェクト】(1)「遊べる・学べる淡海子ども食堂」(2)“滋賀の縁”認証事業

②課題解決のためのネットワークをつくる⇒15か所(概ね福祉事務所単位)

一人ひとりを、家族を、トータルにサポートするために、分野横断で支援者がつながり、解決のために協力して動けるネットワークをつくります。

③制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む⇒15のモデル事業

深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援がうまく届かない問題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとにモデル事業を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設を目指します。

④国や県、市町への施策提案に取り組む⇒20の提案

モデル事業や会員の現場での実践にもとづいた施策充実への提案に取り組みます。

⑤縁・支えあいを県民運動にしていく⇒新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人つくる

つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくります。

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

(平成29年1月10日現在)

■参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町社会福祉協議会会長会
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会・医療福祉 在宅看取りの地域創造会議
レイカディアえにしの会・滋賀県救護施設協議会・淡海フィランソロピーネット

■参加法人会員名簿 ※本名簿は、法人事務局の所在地で掲載しています。

<大津> (福) 青桐会、(福) 穴太福祉会、(福) 近江会、(福) 近江笑生会、(福) 近江神宮仁愛会、(福) 大石福祉会、(福) 大津市社会福祉協議会、
(福) 大津市社会福祉事業団、(福) 大津ひかり福祉会、(福) 恩徳寺会、(福) 華頂会、(福) 唐崎福祉会、(福) 唐橋福祉会、(福) 共生シンフォニー、
(福) 桐生会、(福) 江育会、(福) 幸寿会、(福) 好和会、(福) 湖青福祉会、(福) 小鳩会、(福) 滋賀同仁会、(福) 志賀福祉会、(福) 真盛園、(福) 夕陽会、
(福) 石光山会、(福) 禅心福祉会、(福) せんだん二葉会、(福) つばさ会、(福) 春風会、(福) 琵琶湖愛輪会、(福) 美輪湖の家大津、(福) 楽樹
<湖南> NPO法人ものわすれカフェの仲間たち、(福) あけぼの会、(福) 永山会、(福) 恩賜財団済生会、(福) 湖南会、(福) 彩陽会、(福) しあわせ会、
(福) 慈恵会、(福) 志津保育園、(福) すぎのこ保育園、(福) 聖優会、(福) パレット・ミル、(福) ひかり会、(福) びわこ学園、(福) みのり、
(福) 守山市社会福祉協議会、(福) 守山向日葵会、(福) 野洲慈恵会、(福) 野洲市社会福祉協議会、(福) 友愛、(福) よつば会、
(福) 栗東市社会福祉協議会、(福) 良友会、特定非営利活動法人草津市心身障害児者連絡協議会
<甲賀> (福) あいの土山福祉会、(福) あかつき会、(福) 近江ちいろば会、(福) 近江和順会、(福) 大木会、(福) おさなご会、(福) 甲賀会、
(福) 甲賀学園、(福) 甲賀市社会福祉協議会、(福) 甲南会、(福) 湖南市社会福祉協議会、(福) さわらび福祉会、(福) しがらき会、(福) 信楽福祉会、
(福) 天地会、(福) 八起会、(福) ひまわり会、特定非営利活動法人NPOワイワイあぼしクラブ
<東近江> (福) 阿育会、(福) 一善会、(福) 近江兄弟社地塩会、(福) 近江八幡市社会福祉協議会、(福) グロー、(福) 恵泉会、(福) 湖東会、
(福) サルビア会、(福) 慈照会、(福) 至徳会、(福) 真寿会、(福) 布引会、(福) 八宮会、(福) 八幸会、(福) 万松会、(福) 東近江市社会福祉協議会、
(福) 日野町社会福祉協議会、(福) 日野友愛会、(福) ほのぼの会、(福) めぐみ会、(福) 雪野会、(福) 竜王町社会福祉協議会、(福) 六心会
<湖東> (福) 愛荘町社会福祉協議会、(福) 愛悠ものの会、(福) あすなろ福祉会、(福) 近江ふるさと会、(福) 甲良町社会福祉協議会、(福) ことぶき会、
(福) さざなみ会、(福) さざなみ学園、(福) 椎の実会、(福) 慈水会、(福) 白露会、(福) 善行会、(福) 大樹会、(福) 多賀町社会福祉協議会、(福) 稲朋会、
(福) 豊郷町社会福祉協議会、(福) ノゾミ会、(福) 彦根市社会福祉協議会、(福) ふたば会、(福) みづほ会、(福) 三つ和会、(福) 若葉会
<湖北> (福) カトリック京都司教区 カリタス会、(福) 公悠会、(福) 湖北真幸会、(福) 湖北報恩会、(福) 青祥会、(福) 尊徳会、(福) 達真会、
(福) 長浜市社会福祉協議会、(福) ははのくに、(福) 米原市社会福祉協議会、(福) まんてん
<高島> (福) 大阪自彊館、(福) 光養会、(福) 新旭みのり会、(福) たかしま会、(福) 高島市社会福祉協議会、(福) 虹の会、(福) はこぶね会、
(福) ゆたか会
<県域> (福) 滋賀県社会福祉協議会
【個人会員】 上野谷 加代子、山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良憲、疋田 由香里、牛丸 昇子、
上村 文子、尾畑 聡英、山元 浩美、北居 理恵、松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男、西村 孝実、中根 超信、村上 浩世
【賛助会員】 元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、
一般社団法人きれいや総研滋賀中央センター、株式会社彩生舎

3.11 えにしの日 3.9~3.15 えにし週間

~「この子らを世の光に」の今日の実践~

滋賀の縁創造実践センター、滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議、滋賀県が主唱者となり、東日本大震災が発生した3月11日を「えにしの日」と決めました。「えにしの日」は、県内の各地でさまざまな立場の人が何かひとつでも、いざというときの行動を実践にしてみることで、災害が起こっても皆で生き抜く力を上げていこうという思いからの呼びかけで、「えにし週間」(3月9日~3月15日)にリアリティのある訓練や研修等に県民運動として取り組んでいきます。

そして、この取り組みの気づきを集約して提言していきたいと考えています。

「えにしの日」「えにし週間」のキックオフ事業として、第35回滋賀県社会福祉学会を開催します。

えにしの日・
えにし週間
キックオフ
事業

第35回滋賀県社会福祉学会

- テーマ:災害時に生き抜く力
- 開催日:平成29年3月9日(木)
- 会場:県立長寿社会福祉センター

《全体会(9:45~12:15)プログラム》

【第1部】基調講演

NPO法人にしはらたんぼぼハウス(熊本県阿蘇郡西原村)施設長
上村 加代子さん

【第2部】シンポジウム

《シンポジスト》

高木 節子さん
(滋賀県自閉症協会 事務局代行)

井岡 仁志さん
(社会福祉法人高島市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長)

清水 明彦さん
(社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 常務理事)

上村 加代子さん
(NPO法人にしはらたんぼぼハウス 施設長)

渡邊 光春さん
(滋賀の縁創造実践センター 代表理事/
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 会長)

《コーディネーター》

安田 誠人さん(大谷大学教授)

★現在、参加者募集中です!

詳しくは、滋賀の縁創造実践センターホームページをご覧ください。

「えにしの日」
によせて

となりで暮らしていて当たり前 「自閉症でもOK」という「心のバリアフリー」を願って

滋賀県自閉症協会 事務局代行 高木 節子さん



皆さんが暮らしている地域の中で自閉症の人たちも暮らしています。

「自閉症」といっても、一人ひとり個性があり、配慮すべきことも異なります。

自閉症の人たちは、変わった行動をしてしまうことがあります。突然大声で叫んだり、飛び跳ねたり、体を揺らしたり、独り言を言ったり...これら自閉症特有の行動は、自閉症当事者にとっては、混乱や不安を感じて落ち着くためであるなど、そうせずにはいられない何らかの理由があるのです。自閉症特有の行動はあたたか

く見守ってください。危険なこと、やめてほしいことなどは、短い言葉で優しく伝えてください。大声で怒ったりすると混乱してしまいます。

非日常となる災害時においても、地域の中で自閉症の人たちが過ごせるよう「えにしの日」が契機となって、あたたかいまなざしで見守りあえる地域づくりが進んでいく事を願っています。

※えにしの日・えにし週間キックオフ事業

第35回滋賀県福祉学会・シンポジウムに登壇されます。

お問い合わせ
先はこちら

滋賀の縁創造実践センター事務局

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内
TEL 077-569-4650 FAX 077-567-5160 【メールアドレス】enishi@shigashakyo.jp
【ホームページ】<http://www.shiga-enishi.jp>
【Facebook】<https://www.facebook.com/shiganoenishi>